

## 海津市歴史民俗資料館と行基寺

海津市教育委員会 教育委員 曾根 理仁

7月に放送されたNHKのTV番組ブラタモリ「木曾三川 ～暴れ川 VS. 人間 激闘の歴史とは?～」のおかげで海津市も一躍有名になり、放送後は海津市歴史民俗資料館や行基寺への来訪者が増えたそうです。

この番組より少し前に、私は海津市歴史民俗資料館と行基寺のことが書かれた本を店頭で見つけました。それは、歴史学者の磯村道史氏が、京都の古書店で行基寺の文字が書かれた古文書「御入郡中御用記」を発見し、近著「日本史を暴く」(中公新書)の「第3章 幕末維新の光と闇」「松平容保と高須藩の謎」で紹介している本です。

この古文書「御入郡中御用記」は、幕末の「高須四兄弟」(尾張藩主徳川慶勝、一橋家徳川茂栄、会津藩主松平容保、桑名藩主松平定敬)の父親である、高須藩十代藩主松平義建が弘化四年(1847)に高須の屋敷に長期滞在したとき、高須藩の菩提寺である行基寺が残した記録です。

著書には、義建の側室など奥女中らが養老山系の中腹にある行基寺に来て松茸狩りを楽しんだこと、その奥女中の中には松平容保の母と思われる千代の名前も見られるということなどが書かれていますが、文章の最後にこの古文書を地元の海津市歴史民俗資料館に譲ったことが書かれており、大変驚きました。

早速、海津市歴史民俗資料館を訪ね、この古文書の閲覧をお願いしたところ、ブラタモリで解説を担当された水谷容子さんに解説していただくことができました。古文書は、想像していたより薄い冊子でしたが、例の松茸狩りの箇所では、奥女中たちは手ぶらでやってきたので寺が食事を振る舞ったことや、その時の料理まで書かれていました。その他にも、行基寺が高須の屋敷では藩主義建のお相手をしたことなど当時の藩と寺の関わりが書かれており、全文解読が待たれるところです。

## 「応援しています！北方学園」

北方町教育委員会 教育委員 安田和夫

北方学園（義務教育学校）が誕生し、北学園、南学園での教育が始まりました。今も、県内外から、見学者が絶えないそうです。

その中で、校長先生をはじめ、教職員の先生方は、新たな歴史を、児童生徒、保護者、地域の皆様と共に作っていくのだと、心を尽くしていただいています。先日も、北学園の教育委員会訪問で、特別支援学級、通級指導教室をはじめ、1年生から9年生までの全クラスの授業を見せていただきました。歩くだけでも大変で、数分ずつの授業公開でしたが、とても興味深い授業ばかりでした。タブレット端末を駆使して、個人追究をしている場面もあれば、積極的に仲間と意見交換をしながら読み深めをしている場面もありました。どの教室でも、真剣な眼差しで課題解決に取り組む児童生徒の姿がみられて、とても心強く感じました。

ただ、どの教室にも空席があることが気になりました。北学園でも、不登校は大きな課題となっているのです。こうした状況は、毎月の定例教育委員会内でも毎回報告され、委員で議論を重ねているところです。次年度の北方町教育施策の重点は不登校対策です。これからも、北方学園のことを熱く応援しています。私たちも知恵を絞って少しでもよい方向に向かうことができるようがんばります。